台湾洋上風力で投資決断

三井物産、加社とPF

三井物産は22日、台湾の海龍（ハイロン）洋上風力発電事業について事業パートナーのカナダの大手独立系発電事業者、ノースランド・パワー社（NPI）とプロジェクトファイナンス（PF）に係る契約発効を前提とした最終投資決断を行ったと発表した。

投融資保証額は2600億円

台湾彰化県沖45―70キロ洋上に大型風力タービン73基を建設、2025年末以降に順次、運営・売電する計画だ。総事業費は約9600億円の見込みで、三井物産の投融資保証額は約2600億円（投融資約1700億円、保証約900億円）の予定。同契約は各種先行要件の充足後、年内の発効を予定する。

同事業は25年末に一部完工、26年末に全機完工。主要株主はNPI社60%、三井物産40%で、設備として風力タービン73基、タービン基礎、洋上変電所、陸上変電所、送電ケーブルを擁する。

発電所はHL2A（発電容量294メガワット）、HL2B（同224メガワット）、HL3（同504メガワット）の3区画（同合計1022メガワット）で構成、HL2Aは20年間の長期売電契約を通じて台湾電力に、HL2BとHL3は30年間の長期売電契約を通じて台湾民間電力需要家に売電する。

総事業費のうち、約5400億円はプロジェクトファイナンスによる調達を予定、国際協力銀行、日本貿易保険をはじめとした世界各国の輸出信用機関や金融機関が参画する予定だ。

台湾は50年までに温室効果ガス排出量のネットゼロを目指し、洋上風力発電設備40―55ギガワットの導入を目標に掲げる。同事業は目標達成に向け、台湾の一般家庭100万世帯超の年間消費量に相当する電力供給に当たる。

TRE、50億円出資

東芝株の非公開化に参画

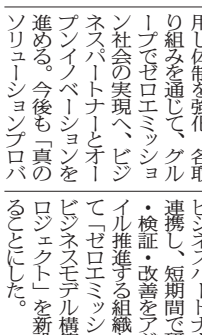
TREホールディングスは21日、東芝株式の非公開化を目的とするTB投資事業有限責任組合に50億円の出資を決議したと発表した。東芝の非公開化に参画し、同社の課題の解消に協力する。東芝との協業や経営参画の予定は現時点でないが、TREは「中長期の事業成長に向けてシナジーが見込める他社との協業は常に前向きに検討してきた」とコメントしている。東芝は2015年以降、不正会計問題や海外の「物言う株主」の出資受け入れなどで経営が混乱。株式を非公開化して年内に上場を廃止し、再建を進める。

同組合は国内を中心とした複数の企業で構成する日本産業パートナーズ（＝JIP）が管理運営する投資ファンドで、今後の東芝の実質的主要株主となる格好だ。

飯田産業、商談アプリ開発

スクラップ業者向け運用

鉄スクラップ業者の飯田産業（本社＝鳥取県米子市、飯田竜也社長）はこのほど、スクラップ業者向けのビジネスマッチングウェブアプリ「メタリサ」を開発し、10月1日から運用を開始する。アプリを通じてスクラップ業界の売買を活発化し、新規開拓に要する業務の効率化を支援する。利用するには事前の会員登録（年会費10万円）が必要だが、運用開始日に無料登録キャンペーンを実施し、同社が設定する上限数まで受け付ける。



メタリサのアプリ画面

効率的に新規開拓

同アプリは、スクラップを売りたい会員が現物の写真や希望価格（掲載は自由）などをアップし、買いたい業者がアプリ内のチャットツールを使って連絡を取り、実際の商売につなげる。

カテゴリーは鉄・非鉄といった大分類から、鉄・特殊鋼、銅・黄銅・アルミ・ステンレス・雑品といった金属別に細分化しており、キーワードやエリア検索もできる。

アプリのダウンロードサイトは、https://metarisa.jp。スマートフォンやタブレット、パソコンなど幅広い端末に対応し、事前登録は社名や代表者名、所在地などを記入すれば誰でも簡単・スピーディーに申し込める。

アプリを開発した飯田社長は10代のころから業界に従事し、発生元や同業者への新規開拓を幾度も経験してきた。「アポイント取りから現地訪問。さらには数度の訪問を重ねて、ようやく商売が始まることが慣例。価格も不透明な風土がある」とし、スクラップ業界のさらなる発展には透明性や売買成立に至る経緯の効率化が必要と考える。「全国の業者に参加していただき、最新情報の集積や共有、業界の活性化につなげたい」（飯田社長）。

同社は2005年に設立し、扱い量は月500㌧。品種は鉄スクラップが8割を占め、そのほか、非鉄スクラップや農機、産機など幅広く取り扱う。設備は600㌧ギロチンやプレス機のほか、各種重機やトラックを保有する。

関東甲信地区福床会

製販一体で取り組む

JFE建材

JFE建材は21日、2023年度関東甲信地区福床会定期総会を栃木県那須町のロイヤルホテル那須で開催し、約40人が出席した。足元の環境説明、販売方針、JFE建材商品の最新情報を紹介し、橋本直政社長から会員を代表して朝日機材、スチールエンジ、日昇鋼業の3社に感謝状が贈呈された。

橋本・JFE建材社長

あいさつで登壇した会長の飯野聡・JFE商事鉄鋼建材社長は冒頭、19日に東京八重洲で発生した大規模再開発工事の事故で亡くなった方にお悔やみの言葉を述べた上で「今年度上期の建築着工面積は前年比約20%減だが年度では前年並みを予想している。大型案件がけん引しているが人手不足、建設資材高騰の影響はある」と言及する一方「建材流通業はマインドに影響する。仕事が継続して出てくるという前向きな気持ちで取り組みたい。ゼネコンの価格競争は厳しいが、JFE建材とともに適正価格を維持し利潤を追求する。物流問題を含め製販一体で取り組み、拡販に努める」と述べた。

飯野会長

橋本社長は「プロ野球はセ・パとも59年ぶりに関西球団が制し景気浮揚への期待はある」と旬な話題に触れた上で「当社の上期収益は皆さまのおかげで少しプラス目で着地できそうだが、土木は従来感覚で計画を立てると全て外れてしまうほど深刻だ。資機材価格も随分と上がっている」と現状を報告した。続けて「土木部門の売り込み活動はしっかりやっているが、併せて各自治体、設計事務所に積極的にアプローチし、情報発信を強化していきたい。後半戦は大都市圏中心に建築は堅調なので、確実に需要を捉えていく」と意欲を示し「自前の技術で解決できることはしっかり行い、年末に向けて新商品開発を進める」と先を見据えた。

ゼロエミ化へ組織立ち上げ

日立建機

現場の電動化進める

日立建機は建設現場のゼロエミッション化に向け、10月1日付で新事業創生ユニット内に新組織「ゼロエミッションビジネスモデル構築プロジェクト」を立ち上げる。新組織をビジネスモデル構築と事業を推進、グローバルで電動化建機の市場ニーズ調査と普及を促進するほか事業拡大へビジネスパートナーを選定、価値共創する。

これらを実現するため、社内外の人財を活用し体制を強化。各取り組みを通じて、グループでゼロエミッション社会の実現へ、ビジネスパートナーとオープンイノベーションを進める。今後も「真のソリューションプロバイダー」として顧客の課題解決に当たる。

建設現場のゼロエミッション化に注力

建設現場の電動化とビジネスモデル構築の各種取り組みを進める。国内にオープンイノベーション研究施設を計画、電動化建機を含む建設現場全体のゼロエミッション化に向けたオープンイノベーションを中心に、迅速適応するアジャイル手法で建設現場の電動化とビジネスモデル構築の各種取り組みを進める。

近畿システム建築協力会が総会開く

JFEシビル

JFEシビルは21日、神戸市中央区のANAクラウンプラザホテル神戸で「2023年度JFE近畿システム建築協力会」の定期総会を開催し、会員企業16社16人が参加した。

藤井謙太郎会長（藤井・JFE近畿システム建築協力会会長

藤井・JFE近畿システム建築協力会会長

井建設社長）は「宿泊や懇親会を伴う総会は4年ぶり。新型コロナが5類となり、多少動きやすくなってきた。JFEシビルは門田純新社長の体制となって、動き出した。関西地区は25年に大阪万博を控えているものの、『働き方改革』による残業規制や材料・労務費の高騰で厳しい環境が続いている。情報を交換するために、懇親を深めてほしい」とあいさつした。

平田・JFEシビル取締役常務執行役員

続いて、JFEシビルの平田浩司取締役常務執行役員は「販売にご協力いただき感謝している。今日で全国10地区の総会が全て終了する。建築需要は大型の物流倉庫や店舗の引き合いが多く、地鎮祭などで外出の機会が増えている。人手不足などの影響が大きく、投資を足踏みすることがあるが、システム建築のニーズは高い。皆さまのビジネス拡大には、システム建築協力会の活性化が不可欠となる」と述べた。

総会では22年度の事業報告や収支報告、会計監査報告、23年度の事業計画案、収支予算案などの議案が審議され、全会一致で承認された。

22年度における近畿地区の表彰会員には、高階と北島建設、平尾工務店が選ばれた。

資源エネG改組

NSユナイテッド海運

NSユナイテッド海運は21日、資源エネルギーグループを10月1日付で組織改編すると発表した。電力エネルギー、産業エネルギー、燃料の各チームを資源エネルギー一、二、三の3チームに再編する。一チームに国内石炭、国内製鉄原料、二チームに国外石炭、国外製鉄原料、穀物、三チームにガス、液体貨物輸送、燃料油購買を組み入れる。

産業春秋

題字 今井 敬氏

ヒグチ鋼管社長

樋口浩邦氏

こんにちは。ヒグチ鋼管株式会社代表の樋口浩邦と申します。今日は2回目の寄稿となります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

さて、7月上旬、大阪市東淀川区にある精密研磨を生業にしている三洋精密工業さんとのM&Aが無事締結され、ヒグチ鋼管グループの一員となりました。

三洋精密工業さんを銀行さんからご紹介いただいたのは昨年の12月。普段からM&A情報を収集するアンテナを張っているため、M&A案件はたくさんご紹介頂くのですが、思い切って資金を投入したいと思えるようなお話はあまり多くありません。ただ、三洋精密工業さんは違いました。私はもちろん、幹部社員もその場で「いい会社ですねえ」と。特にそのビジネスモデルに一目惚れしたのです。

三洋精密工業さんがグループの一員に

ビジネスモデルが悪いと、いくら優秀な経営者が乗り込んでも利益が出ません。ビジネスモデルが良ければ、これから先の事業展開についても見通しが立ちます。それくらいビジネスモデルは経営の肝の部分であり、私たちは最も重視していました。

さっそく2月に三洋精密工業さんの永井社長（現・顧問）とお会いし、会社も見させていただいたのですが、ビジネスモデルが素晴らしいだけでなく、人員も設備も揃っており、なにより永井社長が社員さんをとても大事にされていて、そこが私たちと共通しており、また社風も非常に良かったのです。

そこから話はスムーズに進み、7月上旬にM&Aが無事に締結されました。永井社長には顧問に就いていただき、社長は私が兼務。執行役員営業部長の春名が実務を担う専務として現場に入ったのですが、その春名のことを皆さんが非常に大事にしてくれており、本当に素晴らしい会社さんと巡り会えたと、我々一同喜んでおります。

2021年末には八尾市志紀町にある、鉄・SUS・アルミ・真鍮の旋盤・マシニング加工が専門の溝口工業さんをM&Aでグループ会社とし、小川が専務として既に奮闘中ですが、今回の三洋精密工業の春名、そしてヒグチ鋼管の専務に新たに就任した安田の3人で切磋琢磨しながら、共にお客様に喜んでいただき、彼らに続く若手社員の成長と歩を合わせて、また次のM&Aを仕掛けていきたいと考えております。

日刊産業新聞 23.9.25

「知の交流シンポ」開催

神戸製鋼・山特鋼が参加

川崎氏による特別講演も

兵庫県立大学や神戸商工会議所、兵庫工業会などが主催する「知の交流シンポジウム2023」が22日、神戸市中央区の神戸商工会議所会館で開催された。

シンポジウムでは、講演やポスター発表が行われ、鉄鋼業界からは神戸製鋼所や山陽特殊製鋼などが参加した。

川崎博也・神戸商工会議所会頭（神戸製鋼所特任顧問）が「変化・変革の時代に求められること」をテーマに、特別講演を実施した。同社の歴史や事業内容、カーボンニュートラルへの挑戦や還元ガスで鉄鉱石を直接還元する「ミドレックス技術」、ハイブリッド型水素供給システムの将来像などの説明を行った。また、変革の例として、同社の電力事業や鉄鋼事業の上工程集約について取り上げた。

講演する川崎・神戸商議所会頭

企業紹介ポスターとして、神戸製鋼所や山陽特殊製鋼が展示を行い、会社や技術をアピールした。

同シンポジウムは、「兵庫県立大学知の交流シンポジウム2023実行委員会」が主催。ポストコロナ時代における新たな産学公連携によるイノベーションの創出を目的とし、4年ぶりに神戸市で開催された。

鉄鋼関連指標

〈市況〉（東京相場、トン当たり1,000円）	9月22日	前週	前月	前年
鉄スクラップ(H2問屋買値)	38.0	38.0	38.0	38.5
異形棒鋼(SD295・D16―25、直送)	119	119	119	120
H形鋼（200×100）	122	122	126	125
厚板（19㍉）	146	146	146	146
冷延薄板（1.0㍉）	132	132	135	140
表面処理鋼板（電気めっき冷延下地、1.0㍉）	166	166	171	171
黒ガス管（高炉品、50A）	220	220	220	210
ステンレス冷延鋼板(SUS304、2.0㍉)	650	650	650	680
構造用鋼(SC材、丸鋼)	195	195	195	175
亜鉛（建値）	436	430	388	493
ニッケル（溶解用、市中相場）	3000	3150	3100	3800
アルミ地金（市中相場）	384	385	368	381
銅（建値）	―	1,290	1,260	1,260

〈関連項目〉	（単位：万トン）	前月	前年
粗鋼生産	738.1（7月）	732.9	732.1
小棒生産	63.6（7月）	62.3	66.2
普通鋼国内出荷	322.5（7月）	321.8	332.0
普通鋼国内在庫	517.6（7月）	532.3	590.1
H形鋼ときわ会在庫	19.1（8月）	19.7	18.5
鋼材輸出（普通鋼通関実績）	191.7（7月）	196.8	158.7
鋼材輸入（普通鋼通関実績）	38.6（7月）	38.2	34.9
新設住宅着工（万戸）	6.8（7月）	7.1	7.3
新車登録（万台、含む輸入車）	21.4（8月）	25.3	17.9

人事異動

日鉄物産（10月1日付）
■鉄鋼事業本部
▽大阪支社薄板営業部長（建材企画課長兼人財開発部）田中善幸
▽仁淀鉄鋼（大阪支社薄板営業部長）藤木慎二

JFEホンジニアリング（10月1日付）
▽環境本部アクア統括部長（環境本部アクア統合準備チーム）雒井航
▽〝アクアパイプライン部長（〝アクア事業部水道パイプライン部長）谷口和彦

JFE商事（10月1日付）
■執行役員の役職および分担
▽電機鋼材本部長ノ電機鋼材本部電機鋼材企画部長の委嘱を解く＝［常務］嶋勇二

ネットでスクラップを取引できるアプリ
「メタリサ」10月1日スタート

「メタリサ」トップ画面

出品中のものを確認できる

https://metarisa.jp

飯田産業株式会社 〒683-0101 鳥取県米子市大篠津町3928-1 TEL.090-6321-7081 FAX.0859-28-7278

日刊 産業新聞 JAPAN METAL BULLETIN

パソコンで見る保存紙 2002年～2023年（8月）

DVD-ROM縮刷版 1ヵ月単位（ご希望の年月組合せ自由）

1ヵ月単位＝定価:本体5,170円（送料別） 6ヶ月以上購入で割引

○ 記事検索機能（文字列）
○ プリント出力出来ます※記事・写真のコピー、変更は出来ません
○ CD-ROMをご希望の場合は、CD希望とお伝えください。

産業新聞社では、2002年～2023年（8月迄）の新聞データを1カ月単位より御希望の年月分をDVDに収録し、販売致します。
◎従来の保存紙のように場所を取りません。
パソコンで簡単記事検索（文字列）。ニュース、相場、市況を閲覧し、目的の紙面をプリントアウトできます。
◎貴社の情報収集のスピード化に大きく役立ちます。

好評発売中!!

● お申し込み・お問い合わせ先 株式会社 産業新聞社 IT事業局 TEL:06-7733-7050 FAX:06-7733-7070 media@sangyo.co.jp